

円覚寺（深浦）聖教類 県重宝

県教委 寺下遺跡（階上）骨角器類も

県教委は24日、定例会を開き、県重宝（書跡、典籍）に深浦町の円覚寺で代々伝えられてきた仏教関係書などの真言・修験聖教類及び文書2135点、県重宝（考古資料）に階上町の寺下遺跡から出土した骨角器類141点を指定した。

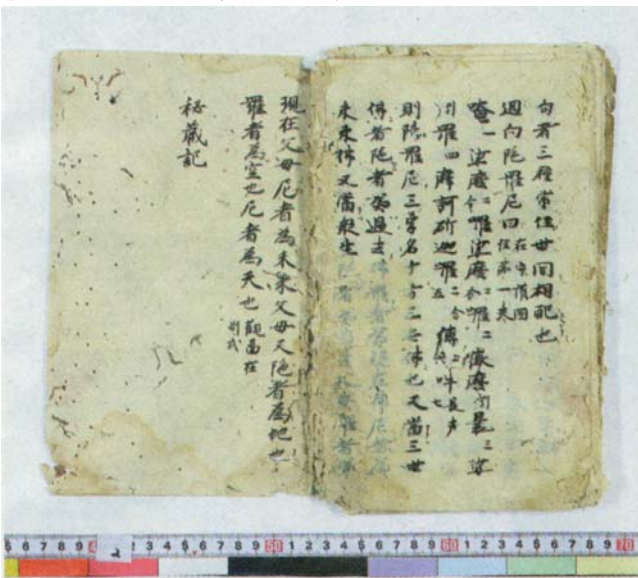
円覚寺は真言宗醍醐派の寺院で、指定されたのは鎌倉時代から明治時代の仏教経典を中心とした仏教関係書「聖教」や、密教で法門の継承を授けた証拠として師から弟子に伝授された証文「印信」など。

円覚寺住職が醍醐寺で修行した際に譲り受けたと推定される聖教や、歴代住職が弘前藩領内の最勝院や大円寺などで修行した際の書写本など6種類に分類できる。中世以降の東日本における真言密教の具体性が分かり、弘前藩における宗教政策や領内寺院の活動や関係性を推測できる貴重な資料群として指定された。

円覚寺の典籍については、2017年から弘前大学人文社会科学部や深浦町、町民らに交えた「深浦円覚寺古典籍保存調査プロ

ジェクト」で調査。陣頭指揮を執る渡辺麻里子・大正大学文学部教授（元弘大人文社会科学部教授）は県重宝決定を「大変うれしい。みんなで大変うれしかった」と喜び、「国指定文化財にも匹敵し、日本の文化を考える上でも貴重な物。広く県民の方々にも知ってもらいたい」と語った。

円覚寺の海浦誠観副住職



南北朝時代の真言聖教関係資料「秘蔵記」の一部（円覚寺提供）

も「文書類がどのようなもので、何が書かれているか謎を解くことが長年の課題だったが、調査で大変貴重な物と分かった。県重宝指定は光栄であり、後世に貴重な資料として残されることは大変な喜び」と話した。

寺下遺跡は、県内では数少ない縄文時代後期前葉から弥生時代初頭（約3000～2300年前）のもので、釣り針や銚などの実用品のほか装身具類も多く出土。中でも精巧な文様が施された腰飾りは全国的にも類例が少なく、本県では唯一の貴重な資料だという。2月27日に開催された県文化財保護審議会で指定が適当と答申されていた。（吉田和華子、下山高秋）

*これらの画像は、本書に限って陸奥新報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

（第三種郵便物認可）

「国文化財級の価値も」

円覚寺古典籍で専門家指摘

国重宝指定が決まった円覚寺（深浦町）が所蔵する古典籍は、4年ほど前に調査研究が始まったばかり。世界遺産の醍醐寺（京都）に、かつてあった本が含まれている。現在「醍醐寺文書聖教」は国宝に指定されており、仏教文学などを専門とする大正大学（東京）の渡辺麻里子教授は、

円覚寺の古典籍も「国指定の文化財となる価値は十分にあるのではないかと高く評価している。関係者によると、県内では仏教資料を専門とする研究者は少なく、円覚寺の古典籍は長い間、日の目を見ることはなかった。転機は2017年、弘前大で教壇に立っていた渡辺教授が、町民向けの講演に先立って円覚寺を訪れた。渡辺教授は取材に「県内に存在しないとされてきた中世の資料が保存されていて大変驚いた。醍醐寺の蔵書だった資料もあり、非常に興奮した」と当時を振り返った。

調査研究には、木造高深浦校舎の教員や生徒、一般町民も参加。資料の写真撮影や寸法測定などに携わった結果、2年ほど調査が早まったという。

円覚寺の海浦誠観副住職（47）は「紙なので気を使って保存してきた。津軽と京都や奈良、江戸などとのつながりを示す貴重な資料として、大切にしていきたい」と話している。（鎌田秀人）



円覚寺の古典籍を手にとる海浦副住職。空海の伝記で、鎌倉時代の醍醐寺の僧の署名もある

*これらの画像は、本書に限って東奥日報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

社説 円覚寺典籍県重宝指定

深浦町にある真言宗醍醐派の寺院・円覚寺に代々伝えられてきた仏教関係書など真言・修験聖教類と文書、いわゆる典籍計2135点が24日、県重宝に指定された。これらは大正大学文学部の渡辺麻里子教授が、弘前大学人文社会科学部在籍時に歴史的価値を見だし、町や町民らに交えた「深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト」として2017年から調査を進めてきた。県重宝指定はこれら典籍自体の価値はもちろん、調査に当たってきたプロジェクトの活動が後押ししたものと考える。渡辺教授は「国指定文化財にも匹敵し、日本の文化を考える上でも貴重な物」と評する。多くの県民が全国に誇ることができる歴史的資産の存在について知り、後世にその価値を伝えてほしい。

京都市の真言宗醍醐派本山醍醐寺を本山とする円覚寺は、平安時代の868（貞観10）年に大和国（現在の奈良県）から訪れた円覚法印が開基。各時代の豪族や藩政期の弘前藩歴代藩主による手厚い庇護を受け、漁師たちの信仰を集めてきた。本堂（観音堂）には、聖徳太子こと厩戸

宝指定を受けた「醍醐寺文書聖教」と同じく伝承されてきたものだ。これら鎌倉時代のものを含め江戸時代までの真言聖教関係資料は141点にも及ぶ。このほか、近世から昭和期までの歴代住職が集めた修験道関係資料や弘前藩領内での修行に関わる書写本など多岐にわたる。円覚寺

県民が重要性を認識し後世へ

皇子作と伝わる本尊十一面観音があり、33年に1度御開帳される。その歴史ある円覚寺に伝わるのが、今回重宝に指定された典籍の数々だ。古くは真言聖教資料など鎌倉時代中々後期にかけての聖教20点がある。住職が醍醐寺で修行した際に譲り受けたものとみられ、13年に国

によると、まだ調査が進んでいない典籍類が多数あり、今後の解明が待たれる。

県教委はこれら典籍の県重宝指定理由に、中世の文書が少ない本県において、現状では最多の中世写本が残されていることに加え、その多くが本山の醍醐寺に由来し、本山と地域の寺院の関係を知らることができる点を挙げている。弘前藩領内の真言宗寺院との関係が分かる文書の中には、明治期に廃寺となった寺院のことなどが含まれ、当時の活動状況が推定できるといえる。

確かに貴重な歴史的資料ばかりだが、課題は深浦町民や県民がその重要性と希少性を感じてくれるかどうかだ。実際、円覚寺関係者も「文書類がどのようなものなのか、何が書かれているのか謎を解くことが長年の課題だった」と語る。より広く認識してもらうには、文書類の現代語訳の作成や広く各所で報告会を開くといった対応が求められよう。こうした取り組みを通じて、より多くの町民および県民の資料に対する関心を深め、資料を誇りとする気持ちを育んでほしい。

*これらの画像は、本書に限って陸奥新報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。



稲葉課長④から指定書を受け取る海浦副住職

円覚寺へ重宝指定書 県教委、仏教関係235点に

深 浦

4月、県重宝の指定を受けた「円覚寺真

言・修験聖教類及び文書」を所有する深浦町の円覚寺に22日、県教育委員会から文化財指定書が交付された。

円覚寺は県内屈指の古刹。国指定の文化財が2件あり、県重宝の指定も今回で4件目となる。同寺本堂で、県文化財保護課の稲葉克徳課長が指定書を読み上げ、海浦誠観副住職に手渡した。海浦副住職は「弘大の先生ら皆さんの支援で、県重宝指定を受けることができた」と感謝の言葉を述べ、草創文人町教育長は「町の文化の誇り。さらに研究が重ねられ、価値が認められるのを期待している」と語った。

円覚寺は真言宗醍醐派の寺院。県重宝となった文書は仏教関係2135点で、中世文書が少ない本県では貴重な資料群などと評価された。同寺は、調査を経て再び資料を展示する見込み。

（鎌田秀人）

*これらの画像は、本書に限って東奥日報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

弘前大学と深浦町などは26日、弘大深浦エコーサテライトキャンパスの特別公開講座・深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクト成果報告会（弘前

深浦

市、陸奥新報社など後援）をオンライン開催する。タイトルは「寺院資料調査から地域文化振興を考える―深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定に

円覚寺古典籍価値考察

寺院資料調査から地域文化振興を考える

―深浦円覚寺古典籍聖教の県重宝指定によせて―

特別公開講座のチラシ

よせて―。ビデオ会議システム「Zoom」(システム)で視聴でき、25日までに事前予約が必要。修験聖教類及び文

書」について、特別講師3人による講演と意見交換を通じ、文化資源としての価値と寺院資料調査の意義について、情報を共有する狙い。開会は午後1時。

申し込みは、QRコードかEメール (hiroaki@hiroaki-u.ac.jp)。

問い合わせは弘大人文・地域研究科総務グループ (80172319)へ。

（下山高秋）

弘大 26日、オンライン講座

講師と演題、講演開始時間は次の通り。（講演時）

▽阿部泰郎氏（名古屋大学名誉教授、龍谷大学文学部教授）|| 「東北は、宗教文化遺産の宝の山である―奥会津からの真言寺院聖教との比較―」（同2時40分）

▽渡辺麻里子氏（大正大学文学部教授、前弘大文学部教授）|| 「東北人文社会科学部教授」|| 「昔の人がのこしてくれた文字と紙―深浦円覚寺の古典籍調査と青森の未来―」（午後1時30分）

▽三村三千代氏（八戸学院大学短期大学部客員教授）|| 「たからものは皆で守る―玄人も素人も

皆で守る―玄人も素人も



*これらの画像は、本書に限って陸奥新報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

⑥ 「陸奥新報」二〇二一年十月四日第八面（陸奥新報社提供）「津軽の街と風景161」

*これらの画像は、本書に限って陸奥新報社が記事利用を許諾したものです。転載は固くお断りします。

ほばたく学ぶ

円覚寺の貴重な資料

津軽の街と風景

◆161◆

中心に注釈や改訂を施した。円覚寺の資料は、山形県山形市にある山形大学蔵の「山形県立山形大学蔵」に所蔵されている。山形大学蔵の「山形県立山形大学蔵」は、山形県立山形大学蔵の「山形県立山形大学蔵」に所蔵されている。山形大学蔵の「山形県立山形大学蔵」は、山形県立山形大学蔵の「山形県立山形大学蔵」に所蔵されている。

鎌倉時代の聖教古文書

鎌倉時代の聖教古文書は、円覚寺の資料の中で最も貴重なものである。この資料は、鎌倉時代の聖教古文書であり、円覚寺の資料の中で最も貴重なものである。この資料は、鎌倉時代の聖教古文書であり、円覚寺の資料の中で最も貴重なものである。この資料は、鎌倉時代の聖教古文書であり、円覚寺の資料の中で最も貴重なものである。



写真4「圓隠集」

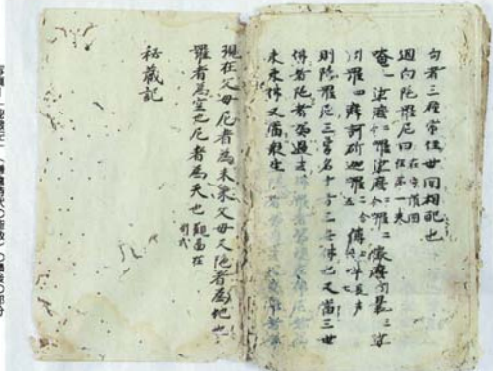


写真1「秘蔵記」



写真2「兵法虎之巻」



写真3「印籠御記」